

第3期須賀川市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和8年7月

○計画期間：令和6年4月～令和11年3月（5年）

1 令和7年度終了時点（令和8年3月31日時点）の中心市街地の概況

第3期中心市街地活性化基本計画は、令和6年4月に市の独自計画として策定し、「新たな発見とチャレンジができるまち」をテーマに、官民が連携しながら、実施計画書に掲載する各施策を推進し、中心市街地の活性化に取り組んでいる。

これまで、中心市街地においては、東日本大震災により被災した市役所庁舎の再建をはじめ、市民交流センターtetteや風流のはじめ館の開館、すかがわ観光物産館 flatto の開店、民間事業者によるシェアオフィスやサテライトオフィス、空きビルを活用したシェアブース型チャレンジショップ等が整備されてきた。

翠ヶ丘公園においては、Park-PFIを活用したカフェや温浴施設、飲食施設がオープンしたほか、須賀川駅東西自由連絡通路の供用が開始され、駅利用者の利便性向上とともに、駅周辺のにぎわい創出につながっている。

2 令和7年度の実施等に対する中心市街地活性化協議会の意見

第3期中心市街地活性化基本計画の令和7年度の進捗において、目標1の休日歩行者通行量は3,334人/日と前年を上回る推移を見せているが、循環バス降車数や滞在時間は減少傾向にあるため、最多の通行者を記録している市民交流センターtetteを起点とした具体的なまちなかへの回遊・誘導の仕組づくりの強化をされたい。

目標2の新規出店者の継続率は81.7%と前年度目標値を下回っていることから、今秋予定されているキッズマーケット等の新たな取り組みを通じた店舗の認知度向上や、SNS等を活用した情報発信、出店後の継続的な支援に注力されたい。

目標3の民間による施設利用件数は923件と目標値を大幅に超過達成しており高く評価するが、このうちtetteの利用が約8割となっているため、今後はtette以外の主要施設（風流のはじめ館、須賀川駅広場、翠ヶ丘公園、結の辻など）の活用も促し、さらなるにぎわい創出を期待する。

また、市民交流センター内チャレンジショップ事業においては、終了後のまちなかへの出店数が累計1件に留まっており、目標値の5件に対して実際の出店者が少ない状況であるが、まちなか以外の出店もみられることから、期間終了後の中心市街地への出店を必須条件から外す運用への見直しを提案するとともに、本指標は創業支援施策の指標とし、事業計画からは除外することも併せて提案する。一方で、市においては、各種インフラ整備や空き物件のマッチング強化を進め、魅力ある中心市街地が形成されることを期待する。

当協議会としても、中心市街地活性化基本計画の実施に向け、引き続き各種民間まちづくり団体等と構築したプラットフォームとしての役割を担い、市や関係団体と連携を図りながらまちなかの活性化に全力で協力してまいりたい。

3 目標毎の達成状況

目標 1 回遊するための手段や仕組みを作る

目標指標である休日歩行者通行量は、令和 7 年度は 3,334 人/日となった。

なお、調査については、令和 7 年 9 月から 10 月までの 2 か月間に渡り、10 箇所 11 地点の通行者数、滞在時間等について GPS による計測を行ったものである。

また、通行者数の最大値は、須賀川市民交流センターtette の 2,169 人である。

		基準値	実績値					目標値
		(R5)	(R6)	(R7)	(R8)	(R9)	(R10)	(R10)
目標指標 休日歩行者通行量 【人/日】		3,247	2,694	3,334				4,000
参 考 指 標	循環バス降者数 【人/年】	33,288	34,884	28,336				35,000
	滞在時間 【時間】	—	29:32	21:32				35:00

※休日歩行者通行量は、調査期間中における休日の歩行者数の平均とした。

※循環バス降車数は、中心市街地内 15 の停留所における総降車数とした。

※滞在時間は、休日に各調査地点に訪れ、留まった時間の平均とした。

目標 2 店舗の認知度や消費を喚起する仕組みを作る

目標指標である新規出店者の継続率は、平成 28 年度以降に中心市街地区域内で昼間営業を行っている新規出店者の継続率であり、令和 7 年度は 81.7%となっている。

なお、令和 7 年度における新規出店者の業種別内訳は、飲食業が 5 店舗、医療・福祉業が 1 店舗となっている。

		基準値	実績値					目標値
		(R5)	(R6)	(R7)	(R8)	(R9)	(R10)	(R10)
目標指標 新規出店者の継続率 (H28～)【%】		86.1	87.5	81.7				87.0
参 考 指 標	新規出店数 (5 年間合計)【人】	47 (R1-5)	51 (R2-6)	49 (R3-7)				51 (R6-10)
	S N S フォロワー数 【人】	60,000	66,832	70,301				72,000

※新規出店数は、当該年度に市の補助金等を活用して開業した者に加え、目視等により確認した。

※S N Sフォロワー数は、北部、南部、中部、翠ヶ丘公園の各エリアからそれぞれ抽出した、Instagram を運用している全 25 事業者の総フォロワー数とした。

目標 3 多様な主体による公共施設・空間の活用を増やす

目標指標である民間事業者による施設利用件数は、主要 6 施設を利用した民間収益事業の件数であり、令和 7 年度は 923 件であった。

最大値は、市民交流センターの 727 件で、全体の利用件数 923 件のうちの 78.8%を占めている。

		基準値	実績値					目標値
		(R5)	(R6)	(R7)	(R8)	(R9)	(R10)	(R10)
目標指標 民間事業者による施設 利用件数【件】		573	952	923				800
参考 指標	民間事業者の イベント等参加者数 【人】	113,101	100,626	116,105				124,411

※主要 6 施設（市庁舎、市民交流センター、風流のはじめ館、須賀川駅（広場）、翠ヶ丘公園、結の辻）

※民間事業者のイベント等参加者数は、上記の民間収益事業等の参加者総数である。

4 施策別実施状況

別紙 実施計画書のとおり。

5 今後の展開と対策

引き続き、須賀川駅西側に駅前広場やロータリーの整備を行うとともに、市道 1104 号線道路の舗装を実施し、駅周辺の混雑軽減と利便性向上を図っていく。

須賀川駅並木町線においては、福島県による電線共同溝の整備完了後に、道路拡幅と歩道整備、四阿を備えたポケットパークの整備を進め、完成後には地域コミュニティの活性化やにぎわいの創出が期待される。

基本計画で課題としている tette 来館者のまちなかへの誘導に対しては、市内の飲食店や菓子店等を紹介する様々な媒体を活用し、まちなかへの誘導に取り組んでいるところであり、引き続き観光物産振興協会と連携し、より多くの来館者を誘導できるような仕組み作りに努めていく。

2 つ目の課題である商店街の活性化に対しては、今年度より中心市街地の商店街において、小学 6 年生を対象とした、お仕事体験事業「（仮）すかがわキッズマーケット」を 10 月に開催する予定であり、店舗の消費喚起と認知度向上を図っていく。初年度は実証実験とし、次年度からは開催範囲や参加者、参加店を拡大し、継続的な開催を目指していく。

また、福島空港の台湾チャーター便のツアー会社に対して、「まちなか散策ツアー」などのパッケージを提案し、まちなかの商店街に立ち寄ってもらえるようインバウンド需要の取り込みについても努めていく。

3 つ目の課題である出店者のニーズにあった空き物件の確保に対しては、まちなか出店推進事業補助金の活用により、店舗併用住宅改修やシェア店舗整備に対応していくことに加え、閉店した店舗併用住宅のオー

ナーに対し、貸店舗として有効活用するような働きかけにより空き物件を確保し、出店希望者とのマッチングに努め、中心市街地のにぎわい創出を推進していく。